



阿安永實錄

阿安永實錄
本館
印

九

~ 13
3362
9



13
3362
9



大正十一年八月廿九日
本大學出版部

二十五
賢佐吉屋
本卯兵衛

淡河 永実 源傳 巻之九

目録

- 一 信友とあるまじき謀略の事
- 一 田中左衛門がほのおお源傳
- 一 石原とありて

茶機堂

淡河 永実 源傳 巻之九



阿 母 永 実 録 傳 卷 之 九

修 友 大 石 寺 之 傳 畧 之 事

兼 田 中 左 仲 之 傳 畧 之 事

大 石 寺 之 傳 畧 之 事

修 友 大 石 寺 之 傳 畧 之 事

修 友 大 石 寺 之 傳 畧 之 事

修 友 大 石 寺 之 傳 畧 之 事

修 友 大 石 寺 之 傳 畧 之 事

鹿より一鹿角竹葉入りて
 と何いんかまきつて竹葉の
 ところいんかおそ長将定
 しるれおそ長将定
 かまきつて実自不
 とおそ長将定
 歌まに何いんか
 母より一鹿角竹葉入りて

鹿より一鹿角竹葉入りて
 と何いんかまきつて竹葉の
 ところいんかおそ長将定
 しるれおそ長将定
 かまきつて実自不
 とおそ長将定
 歌まに何いんか
 母より一鹿角竹葉入りて

やゝとゞ組合と修女と秋の
おまゝのくまゝに思案しるは
不能なる海小舟舟のふる大
石の痛入つや海小舟舟の
指引するおまゝの修女と秋
のふる大知れぬ修女と秋の
然くは海小舟舟のふる大
個の修女と秋のふる大

おまゝの修女と秋のふる大
のふる大知れぬ修女と秋の
然くは海小舟舟のふる大
個の修女と秋のふる大

もあつていふくまのうまもあつて
のあつた女房のあつた女房は
幸甚と申すらん、おのれも
女房は一と利は倍も是れ
是れいふらん、おのれも
女房も御もいふ女房の御も
御いふおのれも、おのれも
おのれもいふらん、おのれも

あつて

月をいふらん、おのれも
おのれもいふらん、おのれも
おのれもいふらん、おのれも
おのれもいふらん、おのれも
おのれもいふらん、おのれも
おのれもいふらん、おのれも
おのれもいふらん、おのれも

らふものも然るな今の世に
今も東と傳へては母も子も
母も縁も切さるる世に
やういふ世に
余と好むとあれは
の世に
てふふ知人の
有難や捨つれぬ

あつたらば母も連るまな
捨てて母も
母も捨つる世に
よのよ縁も
母も捨つる世に
母も捨つる世に
母も捨つる世に
母も捨つる世に
母も捨つる世に



女房も何の事か出来た候に
うすやまゝに候はばは踏連
と云ふ候はひらきまゝに候は
首との様々又の墓を
て或人未だ下り候人まふ
候は首の君と候人君
すくはらば候人まふ
まふ人候は女房らなる

女房も何の事か出来た候に
うすやまゝに候はばは踏連
と云ふ候はひらきまゝに候は
首との様々又の墓を
て或人未だ下り候人まふ
候は首の君と候人君
すくはらば候人まふ
まふ人候は女房らなる

あまのこころを
のまよひし解く
よのまよひし
書海

あまのこころを
よのまよひし
と探し
は

あまのこころを
よのまよひし
と探し
は

小治の徳田君の事は彼大右ら
 もあはれ遊事とゆゑに實よこ歌
 と誰か知つて居るものか
 お徳田君の事
 了ん一書り作歌しつゝ
 なれやえ東さる仲と
 りる程が歌と
 縁りやうこしが恋慕れ思ひは

晴人よのこみうれか
 知るぐやもろく
 思ひは晴人よ
 やん那なや
 こがふうを種
 徳田君の事
 徳田君の事

小橋くぬすむをまゝくたふす
猶田れ智徳けり天晴雨く霞
長く御多。故家おぼえの
てんぐもくも代様さるごま
能くおの首尾く水をさけ
そくはるも法師もあはれ
さくまの美徳をさるるま
時ふたる名通も伝振りゆり

あまぐさき徳造も虎のま
ねもさるるも何れも
とさく一回のぬすも
御様さるるも白
まへんくおのり
中へゆりぬす
ゆすもさるるも
まへんくおのり

しる所とありしはむじ形と能く
み物もいふす大なる事ふ融ける成
一夏といふ人しむひし雨又大なる
多しとありしはむじ形と能く
至る計とありしはむじ形と能く
く思案し我も我程とありし
ハ融るもいふす大なる事ふ融ける成
しる所とありしはむじ形と能く

又夏の計とありしはむじ形と能く
多しとありしはむじ形と能く
至る計とありしはむじ形と能く
く思案し我も我程とありし
ハ融るもいふす大なる事ふ融ける成
しる所とありしはむじ形と能く

さるるのしほの文の歌の付まひ
ふと様一をと様一を言い
もまの者のけと結するのまれ
まの一日のけ様すまはく
けの首と引様くまの巻
まのまのんまのまのけみと
まのけと封すまのけまれ
く白封しまの懐中け付

まのまのけと封すまのけまれ
まのまのんまのまのけみと
まのけと封すまのけまれ
く白封しまの懐中け付
まのまのけと封すまのけまれ
まのまのんまのまのけみと
まのけと封すまのけまれ
く白封しまの懐中け付

そりてしと本集の音に似たりか
節の何れか多しとみすんで
かゝる節の音もさういふ
ちよと節の音もさういふ
りつとれ節の音もさういふ
本集の節の音もさういふ
そりてしと本集の音に似たりか
節の何れか多しとみすんで
かゝる節の音もさういふ
ちよと節の音もさういふ
りつとれ節の音もさういふ
本集の節の音もさういふ

いふはつとれ節の音もさういふ
そりてしと本集の音に似たりか
節の何れか多しとみすんで
かゝる節の音もさういふ
ちよと節の音もさういふ
りつとれ節の音もさういふ
本集の節の音もさういふ
そりてしと本集の音に似たりか
節の何れか多しとみすんで
かゝる節の音もさういふ
ちよと節の音もさういふ
りつとれ節の音もさういふ
本集の節の音もさういふ

